

「ぼくの服」

仲原小学校 五年 森島 結貴

ぼくは、小さいころからいろんなふくが着れません。ぼくがいろんな服を着れない理由は、感覚かびんという特性があるからです。

だからみんなと違う体そう服を着て学習しました。でも、みんなは、それでいいとみとめてくれました。ぼくは、うれしかったです。

みんなにがてなことや人と違うことがあると思います。ぼくもそうです。ぼくのことをみんなにみとめてもらったときぼくは、うれしかったです。だから、ぼくも一人一人の違いを大切にしたいと思いました。でもそれと反対のことをすると、人がいやな思いになったりします。そういうことをぼくは、したくありません。ぼくがみんなにもらったことをぼくもみんなにしてあげたいです。

ぼくは、今小学校五年生なのでもうすぐ中学校に上がります。中学校はせい服があります。ぼくは、せい服が着れるかどうか不安です。しかし中学校の説明会で、せい服が着れるかどうか不安だということを中学校の先生に質問したら、「大じゅうぶですよ。」と、笑顔で答えてくれました。だからぼくは、安心して中学校に行けそうです。それは、先生が大じゅうぶだよと言ってくれたことと、ぼくがいろいろな服を着れないことをみんながみとめてくれたけいけんがあるからです。みんながみとめてくれたことが今、ぼくの勇氣となっています。みんなと同じ服を着ようとすると練習ができたり、せい服が着れなくても、みんなと同じ中学校に行けるといふ勇氣です。

みんながみとめてくれることはそのときにうれしいことだけでなく、そのあともずっと力をあたえてくれます。

だからみんなにもらったように一人一人の違いをみとめて仲か良くできたらいいと思います。みんながそうすることで差別やいじめがなくなりみんな生きやすい幸せな社会につながると思います。ぼくはぼくのけいけんをいかしてこのような社会にできたらいいなと思います。